

●令和5年度「税に関する作文」西宮市長賞受賞作文

【題名】「誰かの支えになれたら」

【学校名・学年】西宮市立鳴尾南中学校 3年

【氏名】金谷 真央

「お姉ちゃん、行けなくなったって。」

同情するように母が言う。昔、楽しみにしていた姉との外出が中止になるのはよくあることだった。姉とは、四つ歳上の従姉妹のことだ。近くに住んでいて、本当の姉と妹のように仲が良く、私の大好きな人だ。

そんな姉は、ひどい喘息を患っている。春の季節には花粉が、台風が来る前は気圧の変化が、姉を苦しめる。「ゼーゼー、ヒューヒュー」という息苦しい声。「コンコン」という止まらない咳。このような発作が頻繁に起こるのだ。

ある日、外出先で姉が発作を起こした。すると、隣に座っていた私に姉が言った。

「ごめんね。隣でたくさん咳されたら嫌だよ。もうすぐしたら、薬が効いてくると思うから。本当にごめんね。」

薬を飲めば、症状は少し治まる。薬を飲む姉を見て、「こんなにたくさんのお薬代は、きっと高いから大変だな」と、昔の私はよく考えていた。

そして今年、税について調べる宿題が出された。税金の使い道について調べている時に、一つの言葉が私の目に飛びこんできた。「こども医療費助成制度」という言葉だ。何だろう、と思い調べてみると、中学三年生までを対象に医療費が無料になる、という子育て支援であることが分かった。「もしかしたら、姉はこの制度のおかげでたくさんのお薬を買うことができたのかもしれない」と思い、母に聞いてみると、

「そうだよ。この制度のおかげで医療費が0円になるから、すっごく助かるわ。」

という返事が返ってきた。私はこれまで、医療費のことなど考えたことがなかったので、0円になると聞いてとても驚いた。そして、この制度に姉は助けられたんだと思うと、本当にありがたいなと思った。

私はこれまで、大人になったら自分の働いたお金の一部を税金として納めなければいけないことを、正直嫌だと思っていた。でも、税金は誰かを救っていること、支えていることを知り、実際に助けられた姉の存在のおかげで、税金の大切さを実感することができた。あまり病院に行く機会がない子供のお父さんやお母さん、子供のいない人たちも、税金を払ってくれている。一生懸命働いて、その中から支払われている税金。姉はその税金のおかげで、今はほとんど症状もなく、元気に暮らしている。

これまで税金の使い道なんて考えたこともなかったが、想像以上に、私たちの身近で私たちを支えてくれていることを知った。これからは、このことにもっと感謝して生活していきたいと思う。そして将来、私が納めた税金が誰かの支えになってくれたらいいなと思う。大好きな姉を、救ってくれたように。